

研究者なら、国籍を問わず歓迎されるような時代が意外と早くやってくるのではないかと、夏休み中でひと気の少ない大学のキャンパスを歩きながら、ふとほほをつね

るのである。

(1987年7月、プリンストン大学にて)

講演企画委員会からのお知らせ

大会プログラム編成方法の一部改定について

現在、気象学会大会のプログラム編成は次の方法で行われることになっています。

1. 発表者が申し込みの際に「希望分野の分類」の中から1分野を選ぶ。
2. 講演企画委員会は、発表者の希望に従って、各セッションに各発表を振り分ける。

しかし、研究分野の多様化と講演数の増加とともに、以下の問題点が生じています。

1. 新しい研究テーマの中には現行の分類項目のどれにも該当しないものがある(例:「惑星大気」)。
2. テーマによっては、該当する項目が2つ以上存在する。そのため、ほぼ同じテーマの発表が複数のセッションへ分散して申し込まれる(例:「ヒートアイランドの観測的研究が「気候」「接地境界層」「局地循環」などへ)。
3. 申し込み件数の極めて少ない分野がある(例:「気象測器」)。
4. 各セッションの講演数は、時間的條件(1セッション3~4時間)にある程度制約される。

これらの理由により、発表者の希望を完全に満たすことは不可能あるいは不適當と考えられる場合があり、講演企画委員会が発表者の希望を適宜調整せざるを得ないのが実状です。

講演企画委員会では、上記の問題点に対応し、より柔軟なセッション編成を可能にするため、申し込み要領を一部改定したいと思います。具体的には、「希望部門の分類」を「内容の分類」(仮称)と改め、申し込み要領を右記(下線部)のように変更することを考えていま

す。

記

「内容の分類」は下記の中から該当するものを選んで記入する。講演企画委員会はこれを参考にしてセッションを編成する。

自由大気現象

- | | |
|------------|-------------|
| 1-1 気象力学 | 1-2 中小規模現象 |
| 1-3 総観規模現象 | 1-4 大気大循環 |
| 1-5 中層大気 | 1-6 熱帯気象・台風 |
| 1-7 気候 | 1-8 惑星大気 |

(小気候は含まない)

境界層の大気現象

- | | |
|-----------|-------------|
| 2-1 接地境界層 | 2-2 エクマン境界層 |
| 2-3 局地循環 | 2-4 大気汚染 |
| 2-5 小気候 | |

大気物理・化学

- | | |
|-----------|--------------|
| 3-1 エアロゾル | 3-2 雲物理・積雲対流 |
| 3-3 放射 | 3-4 大気化学 |
| 3-5 大気電気 | |

その他

- | | |
|----------|------------------------|
| 4-1 応用気象 | 4-2 観測・解析・数値計算手法 |
| 4-3 気象教育 | 4-4 その他(該当する分類項目のないもの) |

最終的な改定案の決定、および将来のプログラム編成作業の参考にするため、会員の皆様からのご意見をうかがいたいと思います。上記の案、その他現行のプログラム編成方法について、自由なご意見をお寄せ下さい。

あて先 〒305 茨城県筑波郡谷田部町長峰 1-1

気象研究所 予報研究部内
講演企画委員会(藤部文昭)